

鹿児島県教育委員会 完了報告書

1. 調査研究概要

【実践した調査研究の概要】

(1) 授業時数を生み出す研究実践

- ・ 15分の短時間学習を活用した単元計画の作成
- ・ 15分+45分の60分授業の試行と分析
- ・ 週単位時間の増加（月の6時間目）

(2) 複式学級における研究実践

- ・ 1・2年生担任等を活用した学年別指導を基本とし、コミュニケーションを豊かにする2学年合同での活動も取り入れた指導の工夫
- ・ A・B年度方式による同単元指導を基本とし、学年毎の目標が設定された繰り返し単元も位置付けられた年間指導計画の作成と授業実践
- ・ 複式学級における短時間学習の実施とよりよい運用の模索
- ・ A L Tや地域人材の活用や近隣の小・中学校との連携、I C Tの活用等、有効な手立ての模索

【成果及び課題】

(1) 成果について

- ・ 15分の短時間学習について、その運用方法や授業準備を工夫し、学習の流れの定着化を図るとともに、年間指導計画に反映させた。これらの取組により、英語に触れる機会を増やすことができるという短時間学習の利点が活かされ、児童の英語学習への意欲の高まりや音声面の技能定着につながった。
- ・ 60分授業について、単元の見直しをもつ第1時と、単元の目標となる言語活動の充実を図ったり振り返ったりする終末時に活用することで、児童は生き生きと活動し、時間確保の面からだけでなく言語活動の活性化という面からもその効果が確認できた。
- ・ 複式学級における指導について、学年別指導を基本とする取組と同単元指導を基本とする取組の二通りの取組を実施した。双方とも児童は自信をもって意欲的に活動できるようになった。これらの取組を参考に、県内の学校は実態に応じていずれかの方法を基本とした指導計画を作成する準備ができた。

(2) 課題について

- ・ 15分の短時間学習の導入により、特に音声面の技能の定着は図りやすくなったと考えるが、「書く」技能については、効果が確認できなかった。「読む・書く」の文字を扱った言語活動についても、15分授業と45分授業との関連を図りながら、指導計画を練り直していく必要である。
- ・ 60分授業の効果的な実施には、担当教諭の児童との英語によるコミュニケーション力も必要であり、担当教諭の英語力の向上に向けた研修等が必要である。
- ・ 学年別指導を基本としている学校の複式学級における15分の短時間学習については、2学年合同の活動しか組めず補充的な学習となってしまったので、複式学級における15分の短時間学習の在り方については、さらに研究を要する。

(年間実施スケジュール)

<鹿児島県>

月	取組内容
4月	
5月	9,10日 アクティブ・ラーニング&カリキュラム・マネジメントサミット in2018 発表
6月	
7月	11日 第3回カリキュラム・マネジメント検討会議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 15分短時間学習の運用方法, 60分授業の効果的な活用方法の検討 ・ 複式学級における指導の在り方及び検証方法の検討 等
8月	28日 鹿児島県小学校英語指導力向上研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内小・中学校教員等を対象とした研修会での成果報告等
9月	} 各市町調査研究の検証とまとめ(手引き作成)
10月	
11月	
12月	19日 第4回カリキュラム・マネジメント検討会議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の成果と課題, 手引きの構成及び内容等についての検討
1月	24日 肝付町立宮富小学校訪問, 授業研究等 28日 南さつま市立万世小学校・小湊小学校訪問, 授業研究等
2月	13日 鹿屋市立鹿屋小学校・東原小学校訪問, 授業研究等 ○ 手引き作成, 検討, 修正
3月	○ 手引き完成・かごしま学力向上支援Webシステムに掲載

<南さつま市>

月	取組内容
4月	
5月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議(教頭会「進取の風」) 小湊小校内研修(学習指導案検討)
6月	小湊小校内研修(外国語研究授業) ※市複式・小規模校連絡会を兼ねる。 カリキュラム・マネジメント検討会議(校長会「進取の風」) カリキュラム・マネジメント検討会議(教頭会「進取の風」)
7月	第2回カリキュラム・マネジメント検討会議(校長会「進取の風」)
8月	小学校教員英語指導力向上研修会発表 万世中校区合同研修会
9月	第3回カリキュラム・マネジメント検討会議(校長会「進取の風」)
10月	第4回カリキュラム・マネジメント検討会議(教頭会「進取の風」) 万世中校区外国語教育担当者打合せ会 万世小校内研修(外国語研究授業)
11月	南さつま市小・中・義・高英語交流研修会
12月	第5回カリキュラム・マネジメント検討会議(教頭会「進取の風」) 武雄市立東川登小学校研修視察 高森町立高森中央小学校研修視察

1月	熊本県高森町「教育の情報化」研究発表会参加 京都市立嵯峨野小学校公開研究会参加
2月	第6回カリキュラム・マネジメント検討会議（校長会「進取の風」） 第7回カリキュラム・マネジメント検討会議（教頭会「進取の風」） 手引き完成・入稿
3月	手引きの配布

<鹿屋市>

月	取組内容
4月	実践校への研究計画等の説明（訪問による） 鹿屋市小中高等学校管理職研修会
5月	英語教育推進会議〔担当及び管理職〕 外国語教育指導方法研修会
6月	鹿屋小・東原小研究授業公開，中学校英語科主任等研修会 第1回イングリッシュキャンプ・英検
7月	第1回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会 鹿屋中校区小中連携部会
8月	「未来を拓く鹿児島県の教育シンポジウム」実践発表 第2回イングリッシュキャンプ 小学校教員英語指導力向上研修会発表 各学校における校内研修等の実施
9月	第2回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会 ・英語教育支援員研修会
10月	教務主任等研修会・東原小研究授業公開 第3回イングリッシュキャンプ・英検
11月	GTEC Jr.（鹿屋小6年生で実施） 第3回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会
12月	意識調査等の実施 第4回イングリッシュキャンプ
1月	英検Jr.（東原小で実施） 鹿屋市学校教育実践発表会 第5回イングリッシュキャンプ ・英検
2月	鹿屋小オープンスクール ・ガイドブックの入稿 GTEC 成績結果説明会
3月	鹿屋市外国語ガイドブックの配布

<肝付町>

月	取組内容
4月	
5月	研究推進委員会（目的・方法等の確認）
6月	校内研修（外国語学習の理解，スキルアップ研修）
7月	学校評価（成果と課題）
8月	研究推進委員会（進捗状況の確認）

	小学校教員英語指導力向上研修会発表 ガイドブック作成
9月	
10月	
11月	研究推進委員会（時間割編成の進め方の確認）
12月	教育課程編成会議（指導計画の検討）、学校評価（成果と課題）
1月	教育課程編成会議（指導計画の作成）
2月	教育課程編成会議（指導計画の作成） ガイドブック完成
3月	ガイドブック配布 研究推進委員会（次年度の確認）学校評価（成果と課題）

2. 調査研究の内容

(1) 南さつま市立万世小学校

2-1 調査研究の内容

(1) 時数確保の具体策

高学年では、既存の外国語活動の35時間に、モジュール学習による10時間、学校行事の精選により生み出した10時間、予備時数から補充した15時間で70時間を確保した。

中学年では、これまで予備時数が十分に確保できていたため、予備時数から25時間補充し、学校行事の精選により生み出した10時間を加え、35時間を確保した。

(2) モジュール学習実施の工夫

授業を進めるにあたり、45分授業の60回と15分のモジュール学習の30回（10コマ分）を組み合わせ実施していくことになる。原則、モジュール学習は火曜日と木曜日のいずれかに45分授業は水曜日と木曜日のいずれかを選択して実施している。

【表1 時数確保の具体策】

	5・6年	3・4年
既存の外国語活動の時間	35時間	0時間
予備時数からの補充	15時間	25時間
学校行事の精選	10時間	10時間
モジュール学習	10時間	0時間
計	70時間	35時間

【表2 万世小学校6年時間割】

	月	火	水	木	金	土
朝の活動		外・算		外・国		
1校時						
2校時				外・他		
3校時						
4校時						
5校時						
6校時			外・他			

この取組の大きな課題は、モジュール学習実施日に朝の活動の時間がカットされたり、授業者の出張などで授業ができなくなったりした場合、次の45分の授業が計画通り実施できなくなる恐れがあることである。そこで、単元の学習の流れを損なわずに45分授業と15分のモジュール学習を柔軟に組み合わせて実施していくため授業の中で、10分から15分程度で実施できるアクティビティに★印を付け、単元指導計画を作成した。45分授業では★印三つ分のアクティビティを行い、15分のモジュール学習では★印一つ分のアクティビティを行うようにした。

(3) 授業展開モデルの作成

基本的な授業モデルを作成し、授業展開の流れをそろえた。これにより、外国語指導の経験の少ない教員も安心して授業に臨むことができた。

また、この単元指導計画と授業展開モデルを合わせることで、1単位時間の指導計画を柔軟に組み立てて実施することが可能となった。

【表3 単元指導計画例】

	主な活動	教材
	★ 教師や ALT のクイズ大会のモデルスピーチを聞く。	
1	★ 音声聞いて、動物の名前を誌面に書く。	Let's Listen
	★ 動物の数を数え、1～30までの数の言い方を練習する。	Let's Play
	★ 100までの数を練習する。	
2	★ アルファベットの小文字のカードを使ったゲームをする。	
	★ 見たことがあるアルファベットの表示を誌面に書き写す。	Activity
	★ 色や動物を表す言い方を練習する。	
3	★ アルファベットの小文字を使ったゲームをする。	
	★ 色を表す単語を書き写す。	

【表4 45分授業展開モデル例】

	指導過程	備考
Greeting	あいさつ	・ あいさつ、曜日や日付、天気等を確認する。
Warm-up	歌 フリートークタイム	・ 学級で設定した歌を歌う。 ・ 単元の学習に関連する問いを投げかけ、友達や先生と英語でのコミュニケーションを図る。
Today's Goal	めあての確認	・ めあてを板書し、本時で学ぶことを意識させる。ワークシートに記入させる。 ・ 本時のゴールの姿をイメージさせる。
Activity	展開	・ めあての達成に必要な活動を行う。 ・ ★マーク三つ分のアクティビティを行う。
Review	振り返り	・ 振り返りシートに記入させ、本時の学習を振り返らせる。
Greeting	あいさつ	・ 次時の学習内容を知らせ、次時の学習への意欲を高める。 ・ 終わりのあいさつをする。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題

(子どもの視点から)

○毎週、定期的にモジュール学習を行うことで、外国語に触れる機会が増え、外国語に対する興味・関心が高まった。

○言語活動中、臆せずに英語を発話するようになり、自然な反応を交えてスムーズに対話できるようになってきた。

(教職員の負担の視点, 校務運営の視点から)

- モジュール学習による時数贈りに取り組んだため, 学校行事や予備時数への影響が少ない中で, 時数を確保することができた。
- モジュール学習, 45分授業の基本的な指導展開例を作成し, それを基に授業を進めることで, 外国語の指導に不安を抱いていた教員の不安感を軽減することができた。
- 本年度分の単元指導計画を作成することができた。バックワードデザインの考え方の下, 作成することで, 単元全体の見通しをもって指導することができた。
- 今後, 本年度の単元指導計画を修正しながら, 来年度以降の単元指導計画の作成を進めていきたい。

(地域との関係の視点から)

- 学校運営協議会において, 本校の研究についての内容や進捗状況を説明し, 地域への啓発を図っている。
- 地域の理解を得ながら, 地域人材の活用やコミュニケーションの場の設定を行っていく。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	
5月	
6月	校内研修「外国語研究授業・授業研究」
7月	
8月	万世中校区4校合同研修会 校内研修「単元指導計画の作成について」 小学校英語力向上研修会「実践発表」
9月	万世中校区6年生集合学習(中学校教員による外国語乗り入れ授業)
10月	万世中校区小中外国語部会 校内研修「外国語活動研究授業・授業研究」
11月	南さつま市小・中・義・高英語交流研修会
12月	
1月	
2月	
3月	万世中校区小中外国語部会

※ 毎月1回校内外国語部会の開催(教頭, 3年~6年担任)

(2)南さつま市立小湊小学校（複式学級）

2-1 調査研究の内容

(1)時数確保の具体策

これまで授業を設定していなかった月曜日の6校時に新たに授業を設定した。これにより平成30年度は年間31時間の時数が確保できた。残りの時数については、中学年では予備時数から4時間補充し高学年はモジュール学習（1回15分）を12回実施し、4時間分を確保した。

【表1 時数確保の具体策】

	5・6年	3・4年
既存の外国語活動の時間	35時間	0時間
月曜日6校時の新設	31時間	31時間
モジュール学習	4時間	0時間
予備時数から	0時間	4時間
計	70時間	35時間

(2)校時表及び指導体制の工夫

月曜日の6校時に授業を実施し、更にこれまでと同等の職員会議・職員研修の時間を確保するために右表のように校時表を工夫した。朝の活動、業間活動、清掃時間をカットすることで、これまでと同じ時刻から職員会議・職員研修を始めることができるようにした。

【表2 小湊小の月曜日の校時表】

月曜日の6校時は3年生～6年生が授業で、1・2年生は下校する。月曜日6校時は、原則外国語科・外国語活動の時間とし、1・2年担任が3・4年、5・6年の授業に入ることで複式学級の授業ではなく、

単式学級として授業を行うことができる。5・6年のもう1時間の外国語科の授業についても、他の曜日の6校時に行い、低学年の担任が授業に入れるようにした。

平成29年度		平成30年度	
8:15～8:20	読書タイム	8:15～8:20	読書タイム
8:20～8:30	朝の活動		朝の活動カット
8:30～8:40	朝の会	8:20～8:30	朝の会
8:40～9:25	1校時	8:30～9:15	1校時
9:35～10:20	2校時	9:25～10:10	2校時
10:25～10:40	業間		業間カット
10:55～11:40	3校時	10:25～11:10	3校時
11:50～12:35	4校時	11:20～12:05	4校時
12:35～13:15	給食	12:05～12:45	給食
13:15～14:00	休憩	12:45～13:30	休憩
14:00～14:15	清掃		清掃カット
14:20～15:05	5校時	13:30～14:15	5校時
15:05～15:15	帰りの会	14:15～14:25	帰りの会
		14:25～15:10	6校時
15:20～16:45	職員会議 職員研修	15:20～16:20	職員会議 職員研修

【表3 授業担当者】

(3)複式学級における年別指導の留意点

それぞれの学年に担当がつく学年別指導が実現したことにより、各学年、発達の段階に応じたそれぞれの学年の指導計画に基づいて授業を実施することが可能となり、教師の授業準備の負担は軽減された。

学年	担当者
3年生	1年担任
4年生	3・4年担任
5年生	2年担任
6年生	5・6年担任

しかし、複式学級を分けることで、更に人数が少なくなり、コミュニケーションの場が限定されるという課題も見られた。

そこで、コミュニケーション活動をより活性化するために、各学年での指導を基本としながら、両学年合同の活動の場を検討し、単元や1単位時間の中に位置付けるようにした。

授業の始まりを、2学年合同で行うことで、フリートークタイムで、多くの友達とコミュニケーションを取ることができる。

【表4 複式学級における授業例】

	指導過程	5年	6年
Greeting	あいさつ	◎ はじめのあいさつをし、曜日や日付、天気を確認する。	
Warm-up	歌 フリートークタイム	◎ 今月の英語の歌「きらきら星」を歌う。 ◎ フリートークタイム「日曜日に何をしましたか。」	
Today's Goal	めあての確認	・ 道案内の仕方を練習する。 ・ 行きたい場所へ道案内をする。	・ 将来の夢の言い方を練習する。 ・ 自分の夢について書く。
Activity	展開	◎ 6年生が立っている場所まで、5年生同士で道案内をする。 ◎ 5年生が目の前に着いたら、6年生が自分の夢についてスピーチをする。	
Review	振り返り	◎ 振り返りシートに記入する。	
Greeting	あいさつ	◎ 終わりのあいさつをする。	

◎は、5・6年合同の活動

他の学年の友達に伝えるという目的意識をもつことで、意欲をもって練習に取り組んでいた。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題

(子どもの視点から)

- 学年別指導により、自分の学年の授業を受けているので、発達の段階に応じた無理のない学習をすることができている。
- それぞれの学年に分かれて学習しているので、通常の複式学級よりも更に少ない人数での学習となり、活動の場が限定されてしまうので、学年別指導をベースとしながらも、行動で活動できる場を今後も工夫し、単元や1時間の授業計画に適切に位置付けていく必要がある。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- 複式学級では、2学年分の教材研究が必要となるが、学年別の指導では、1学年分の教材研究となるため、担任の負担を軽減できた。
- 低学年担任も、中・高学年の指導に入るため、一部の担任だけの負担とならず、全職員で取り組む体制づくりができた。
- コミュニケーションの場を工夫するために、授業の中に2学年合同で活動する場を位置付ける努力をしているが、打ち合わせの時間が必要であり、今年度は十分に取れなかった。来年度はその時間をきちんと位置付けることを検討している。

(地域との関係の視点から)

- 授業参観等，外部から参観者がある場合は，保護者や地域の方等の参観者に授業に積極的に参加してもらい，コミュニケーションの場の活性化に努めることができた。
- 学校運営協議会で，外国語教育に対する取組を説明し，外部人材の活用等について協力体制を構築していく必要がある。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	
5月	
6月	校内研修「指導案検討」 市複式・小規模校連絡会
7月	
8月	万世中校区4校合同研修会 小学校英語力向上研修会「実践発表」
9月	万世中校区6年生集合学習（中学校教員による外国語乗り入れ授業）
10月	万世中校区小中外国語部会
11月	校内研修「外国語活動指導案検討」 南さつま市小・中・義・高英語交流研修会
12月	校内研修「外国語活動研究授業・授業研究」
1月	
2月	
3月	万世中校区小中外国語部会

(3) 鹿屋市立鹿屋小学校

2-1 調査研究の内容

(具体的な研究内容)

鹿屋小学校においては，英語教育強化地域拠点事業における研究・実践に基づいて短時間学習の在り方，教育課程編成や年間指導計画の作成について，鹿屋小の研究を市内全域に波及させるために継続研究を行った。

具体的には，5・6年生において外国語の週当たりのコマ数を2コマに増やした。さらに，外国語科で朝の時間帯に15分の短時間学習を年間30回実施し，10時間の時数を確保した。

【外国語モジュール学習の概要】

時間	時間帯	コマ数	時数	学習内容
45分授業	通常の間 時間割	60	60時間	共通のレッスンプラン
15分授業	朝の活動 8:30~ 8:45	30	10時間	①5分 挨拶やピクチャーボードを使用した復習 ②5分 My Book コミュニケーション活動 ③5分 文字の学習

モジュールの学習内容が、通常の45分授業と連動し、単元の学習が目指す「聞く・話す」力の定着につながるように、45分授業の年間指導計画に加え、モジュール学習の年間指導計画を別に作成し、同じ時間帯に同じ学習内容を学年部主導で実施できるようにした。

【6年生外国語モジュール年間指導計画 ※1学期分】

回数	期日	あいさつ 1分	6年単元 2分	復習単元 2分	My book skit練習5分	文字学習 5分	準備する もの
1	5/19	How are you?	道案内をしよう	どちらが好き?	道案内skit練習 (前の学期の復習)	小文字苦手なもの jregpqft	①ピクチャー ボード×2 ②児童作成台本 ③4線シート
2	5/26	How is the weather today?	道案内をしよう	どちらが好き?	道案内skit練習	小文字苦手なもの jregpqft	
3	6/7	What day is it today?	道案内をしよう	どちらが好き?	道案内skit練習	小文字苦手なもの jregpqft	
4	6/9	What's the date today?	道案内をしよう	おしゃれをしよう	道案内skit練習	a～fの音	①ピクチャー ボード×2 ②児童作成台本 ③4線シート ④My Book
5	6/14	What's the date today?	道案内をしよう	おしゃれをしよう	My book 自己紹介	g～kの音	
6	6/21	What time is it now?	道案内をしよう	おしゃれをしよう	My book 自己紹介	l～pの音	
7	6/28	What subjects do you have?	世界一周 旅行をしよう	遊びに行こう	My book 自己紹介	q～uの音	
8	7/8		世界一周 旅行をしよう	遊びに行こう	My book 自己紹介	v～zの音	

【3年生国語モジュール年間指導計画】

また、3・4年生においては、国語科のモジュール学習を水曜日、金曜日の朝の時間帯に行った。このことにより外国語活動の45分授業を週一コマ分、設定することができた。国語科のモジュール学習も45分授業の年間指導計画とは別にモジュール学習の年間指導計画を作成し、「漢字の広場」や毛筆・硬筆などを中心に教科書の進捗に合わせながら、担任主導で実施した。（※右図参照）

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題

(子どもの視点から)

○高学年については、モジュールの15分学習も合わせて、平均週3回英語にふれる機会ができたことで、「聞く・話す」力の定着を図ることができた。外部試験結果から、「聞く・話す」力が安定してきたことが分かる。（下表参照）

○語彙や表現の定着が図られたことで、単元ゴールのコミュニケーション活動に自信をもって積極的に取り組む児童の姿が見られた。

【GTEC Jr. 技能別平均スコア（対象：鹿屋小学校6年生）】

	H28(体験版)	H29	H30
聞く	81.0	87.8 ↑	91.9 ↑
話す	90.0	85.0 ↑	85.0 ↑

回	日付	計画
1	5月上旬	教P25 「国語辞典の使い方」 国語辞典を用いた実 際の言葉調べ (準)国語辞典 練習プ リント
2	5月中旬	教P28 「漢字の音と訓」 「音と訓」の違い、意 味の確認 (準)練習プリント
3	6月上旬	教P38 「こそあと言 葉」 「こそあと言葉」の使 い分けの確認
4	6月上旬	教P38 「こそあと言 葉」 「こそあと言葉」の使 い分けの復習と練習 (準)練習プリント
5	6月中旬	硬筆「硬筆「楕圓」 硬筆ノートで練習

読む	64.0	69.7 ↓	66.6 ↓
書く	65.0	88.7 ↑	77.3 ↓

※ H28は、体験版を受験したため、小数点以下の数値はない。
 ※ ↑全国平均値を上回る。↓下回る。

- 「読む・書く」については、全国より低いため、今後、新学習指導要領指導の内容について研修を深め、指導方法の改善を図る必要がある。
- 朝のモジュールと連続で1時間目に英語の授業を試しに行ってみたが、時間割の入替が煩雑であり、検証授業を継続することが困難であった。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- モジュール学習の15分という短い時間を有効に使い、児童にとっても有意義なものにできるかということが課題であったが、担任が前日の放課後に言語活動で使用する絵や写真などを黒板に貼っておくことで、児童はモジュール学習の言語活動への想像を膨らませ、心の準備をもって授業に臨み、活動がスムーズに行うことができ、短い時間を有効に使うことができたと考える。
- 担任が出張や年休等で朝の活動が行えない場合は、モジュール学習の指導計画に沿って、担任以外でも指導に当たることのできる体制を確立している。
- 3・4年生の国語科のモジュール学習は、担任の負担感はなく時数確保と基礎・基本の定着のためにとっても有効であった。英語のように実施日と内容を固定せず、教科書の進捗状況に合わせて担任がモジュール学習の内容を調整できたことも負担軽減につながった。
- 昨年度は学級担任でない教員（加配・英語教育推進リーダー）が校内の研究を中心となって推進し、モジュール学習の教材も作成・準備できていた。今年は学級担任が推進リーダーであったため、研究推進や教材の開発・準備等が困難な部分があった。平成32年度に向け、今後採択される教科書に合わせて、モジュール学習用の教材の見直しや作成のための時間確保が課題である。

(地域との関係の視点から)

- オープンスクールで、今までの研究の成果を地域住民に公開することができた。
- 英語自主勉強会を毎月第1・3金曜日の放課後に実施し、鹿屋市内・外の教員やALT、また英語教育に関心のある市民と一緒にワークショップ等を行い、自校の課題解決に情報を得ることができた。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	・校内研修会（研究テーマ、年間指導計画、モジュール学習について） ・校内英語推進リーダー打合せ ・鹿屋市英語自主勉強会（毎月第1・3金曜日の放課後実施）
5月	・外国語教育指導方法研修会（鹿屋市年間指導計画による模擬授業）
6月	・鹿屋小研究授業公開
7月	・鹿屋小・鹿屋中学校意識調査等の実施 ・第1回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会
8月	・校内研修会 ・英語教育推進リーダーによるスキルアップ研修会（※年3回実施）

9月	・第2回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会 ・英語教育支援員研修会
10月	・校内研修会
11月	・GTEC Jr. (鹿屋小6年生で実施) ・第3回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会
12月	・ガイドブック原稿作成 ・意識調査等の実施
1月	・鹿屋市学校教育実践発表会 ・オープンスクール事前授業
2月	・鹿屋小オープンスクール授業公開 ・義務教育課訪問
3月	・GTEC成績結果説明会 ・研究のまとめ

(4) 鹿屋市立東原小学校

2-1 調査研究の内容

(具体的な研究内容)

(1) 60分授業 (モジュール15分+45分授業) の概要

東原小学校においても、短時間学習の在り方や教育課程編成、年間指導計画の作成等について、調査研究の成果を市内全域に波及させるために継続研究を行った。

具体的には、5・6年生において外国語の週当たりのコマ数を基本2コマとし、朝の時間帯にも15分の短時間学習を30回実施することで10コマ分の時数を確保した。

60分授業の有効な活用法を探り、単元の第1時(単元の学習の見通しをもつ時間)と終末(単元の学習の成果を振り返る時間)において60分授業を実施することを基本とし、その内容について具体的に検討することとした。

(2) 単元の第1時で60分授業を実施する場合

ア 指導過程

【45分授業】		【60分授業】	
主な学習活動	分	分	主な学習活動
《Warm up》(8分)			《Warm up》(23分)
1 あいさつ	1	1 1	あいさつ
2 歌を歌う	2	2 2	歌を歌う
3 コミュニケーションイングリッシュ練習	2	2 3	コミュニケーションイングリッシュ練習
4 スキットを見る	1	11 4	Small Talk (教師-児童) ※ 児童と「やり取り」をしながら単元のゴールの活動を紹介する。
5 めあてをつかむ	2	2 5	めあてをつかむ
《Activity》		5 6	新出単語の導入(学び合い)
6 チャンツ	25	25 7	《Activity》 チャンツ
7 アクティビティー		8 8	アクティビティー
8 文字に親しむ	7	7 9	文字に親しむ
《Review》			《Review》

9 学習を振り返る	5	5 10 学習を振り返る
10 あいさつ		11 あいさつ

イ ねらい

単元の導入時である第1時に、教師と児童の対話形式の Small Talk の時間を十分に確保することで、以下の2点を充実させ、単元ゴールへの見通しを明確にもてるようにした。

- ①既習事項を中心とした教師と児童のやり取りを通して、児童が単元のゴールとなる言語活動をイメージし、コミュニケーションの目的や使用場面、状況などを明確に捉えることができるようにする。
- ②新しい表現を何度も繰り返し聞かせる活動や児童同士の学び合いの時間を設定することで、十分にインプットできるようにする。

ウ 実践例：単元「できる？できない？」

教師の友達を紹介するという内容で Small Talk を行った。He can/can't ~. を使って説明したり、Can you? と児童に尋ねたりしながら、繰り返し新出表現にふれさせた。

(3)単元の終末で60分授業を実施する場合

ア 指導過程

【45分授業】

主な学習活動	分
《Warm up》	
1 あいさつをする	5
2 歌を歌う	
3 コミュニケーションイング リッシュ練習	
4 めあてをつかむ	
《Activity》	
5 紹介の手本を見る	28
6 My Bookの練習をする。	
7 グループでMy Book発表をする。	
8 全体で一人ずつ発表する。	
9 文字に親しむ	7
《Review》	
10 学習したことを振り返る	5
11 あいさつをする	

【60分授業】

分	主な学習活動
	《Warm up》
5	1 あいさつをする
	2 歌を歌う
	3 コミュニケーションイング リッシュ練習
	4 めあてをつかむ
	《Activity》
28	5 紹介の手本を見る
	6 My Bookの練習をする。
	7 グループでMy Book発表をする。
	8 全体で一人ずつ発表する。
15	9 Small Talk (児童-児童) ※ 発表内容や単元のトピックについて話す。
	10 文字に親しむ
7	《Review》
5	11 学習したことを振り返る
	12 あいさつをする

イ 単元の終末を60分授業にするねらい

全員の発表を聞いた後に児童相互によるSmall Talkを設定することで、単元のトピックについて「考えながら話す」力の育成を図る。その際、児童同士が実際に話す時間は1~2分程度の短時間であるが、1回目を行った後は様々な意見や感想、あがってきた課題等について全員で共有化を図り、再度話してみるという過程を工夫するなどして、考えながら話す力を高められるようにしたい。

ウ 実践例：単元「できる？できない？」

自分のできるスポーツや楽器などについて発表し合った後、驚きや賞賛、自分もできることやできないことを紹介するなどの対話をペアで行わせる。1分間話したら相手を替えてまた対話を行わせる。英語のみを使って会話を続けるよう指示をして、相手の言っていることが分かりづらいときには、聞き返すなどの方法をとらせて、できるだけ会話が途切れないようにさせる。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

(子どもの視点から)

- 単元の第1時と終末の時間で、意図を持って Small Talkを充実させたことにより、児童は60分間飽きることなく、意欲的に活動した。「今日はもう終わり？」という言葉が児童から発せられることもあり、児童は概ね生き生きと活動した。
- 単元の第1時で、Small Talkで単元のゴールのイメージと学習の見通しをもたせることで、単元を通して意欲的に学習に取り組むことができていた。
- グループで「学び合い」の時間を設定したり、単元終末にペアでSmall Talkを行ったりすることにより、児童は主体的に学習に取り組むことができていた。
- 児童同士のコミュニケーション活動となるため、一斉に実施すると見届けが困難になる。学習形態の工夫や英語指導講師との連携を工夫し、活動中も適切な声かけや指導、見取りができるように努めたい。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

- 推進リーダー以外の担任が授業を3回公開した際、中学校や大学等からも参加者があり、様々な観点から有意義な協議ができた。
- 担任が児童に合わせた英語で授業を進めることと、「学び合い」のスタイルを設定することが授業で定着し、児童主体の授業を行うことができた。
- 英語の60分授業で「学び合い」の場を多く設定したことで、他教科においても児童主体の授業を実践することができた。特に算数では、県学習定着度調査においても8割を越える通過率で好成績であった。

【鹿児島定着度調査結果 対象：5年生】

	算 数	総 点
東原小	83.8	274.7
県	72.8	260.4

- 本調査研究への取組を通して、職員の学校経営への参画意識が高まった。
- 大規模校での60分授業の実施を考えた時、単元の第1時と終末に60分授業を行えるように時間割を調整することが難しいと思われる。本校規模では臨機応変に対応できたが、運用方法についてはさらに研究を進める必要がある。

(地域との関係の視点から)

- 鹿屋小のオープンスクールにおいて、ゲストティーチャーとして東原小教諭が授業を行い、

「学び合い」のスタイル入れた授業を公開することができた。

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	・校内研修会（研究テーマ・年間スケジュール設定）
5月	・外国語教育指導方法研修会（鹿屋市年間指導計画による模擬授業）
6月	・東原小研究授業公開
7月	・中学校意識調査等の実施 ・第1回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会
8月	・校内研修会 ・英語教育推進リーダーによるスキルアップ研修会（年3回）
9月	・第2回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会 ・英語教育支援員研修会
10月	・東原小研究授業公開
11月	・第3回鹿屋市カリキュラム・マネジメント検討委員会
12月	・ガイドブック原稿作成 ・意識調査等の実施
1月	・鹿屋市学校教育実践発表会 ・オープンスクール事前授業
2月	・鹿屋小オープンスクール授業公開（ゲストティーチャー） ・義務教育課訪問 ・英検 Jr. 実施（3年～6年）
3月	・英検 Jr. 結果検証 ・研究のまとめ

(5) 肝付町立宮富小学校（複式学級）

2-1 調査研究の内容

（具体的な研究内容）

(1) 教育課程全体の検討

ア 授業時数確保のための教育課程編成

- ・平成29年度に試行した15分のモジュール学習は、複式学級での運用は困難であったため、45分授業で時数確保する方向で検討を行った。
- ・これまで学力向上に充てていた月1回の土曜授業の授業を3・4年の外国語活動、5・6年の外国語科に充てることとした。
- ・行事等の精選により生み出された時間を3・4年の外国語活動、5・6年の外国語科に充てることとした。行事等の見直しについては、学校評価や教育課程編成会議や実際に指導計画案を作成する場で検討した。

(2) 複式授業対応のための同単元指導計画(A・B年度折衷案)の作成、実施と検証

ア A・B年度折衷案の基本的な考え方

- ・島根県雲南市立吉田小・田井小の指導計画を参考に年間指導計画を作成
- ・「コミュニケーションの場面を踏まえる」「コミュニケーションの働きに発達の特性を踏まえる」「時期的特性を踏まえる」の3つの観点から、共通単元（繰り返し単元）を設定
- ・未履修にならないための部分的な学年別指導の実施

- イ A・B年度折衷案の作成
 - ・下の学年が未習の単元の時数の確保
 - ・アルファベット等の書く活動の配置への配慮
- ウ A・B年度折衷案による同単元指導の実施

第5・6学年 外国語科 単元配列表

1 学期	偶数年度(30年度)		奇数年度(31年度)	
	単元名・目標	時数	単元名・目標	時数
	「知識・技能」 ○外国語の4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)について、実際のコミュニケーションにおいて必要な知識・技能を身に付けている。 「思考力・判断力・表現力」 <外国語> ○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて考え、友達に質問したり答えたりして表現している。 「学びに向かう態度・人間性」「主体的に学習に取り組む態度」 ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさや真摯を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	6-1 <<This is me.>> 自己紹介・アルファベット 【目標】 ・活字体の大文字、小文字が分かり、文字には読み方のほかに音があることに気付く。 ・自分のことや身近なことについて、短い会話や説明を聞いて概要を捉える。 ・他者に配慮しながら自身の名前や好きな物、欲しい物などを含めて簡単な自己紹介をしようとする。	8	曜日、月、天気、時刻のいい方には、年間を通して慣れ親しませていく。
5月	5-2 <<When your birthday?>> 行事・誕生日 【目標】 ・活字体の文字の書き方や、季節や誕生日の言い方や誕生日の尋ね方や答え方が分かる。 ・祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いて、おおよその内容を聞き取るとともに、好みや欲しい物、誕生日を風変わり答えたり	7	6-2 <<Welcome to Japan.>> 日本へようこそ 【目標】 ・行事や遊び、食べ物についての感想、味覚を表す表現が分かる。 ・日本文化についての話を聞いて、概要を捉えたり、好きな日本文化について話したりする。日本文化について、音声で十分に慣れ親しむが簡単な語句や基本的な表	8

エ 複式指導の実践を通じたA・B年度折衷案の評価

- ・今年度は、新学習指導要領への移行期間であることに配慮し、特に、来年度は中学校へ上がる6年生に学び残しが出ないように、上学年に合わせた年間指導計画とした。そのため、下学年が無理をする部分もあったが、少人数指導のよさを生かし、来年度の学習で個別指導や学び直し場を設ける。
- ・書くことの指導については、中学年の学習の中でローマ字との違いを学習させ、家庭学習や長期休業中の課題とする。
- ・コミュニケーションの場の確保は、おおむねうまくいった。教科書を2冊使うことも効果的だった。ICTの活用も有効であった。
- ・評価については、振り返りカード等を活用し実施できたが、2学年児童のレベル差に考慮する必要がある。現在、精査中であるが、学年や個人差を考慮した目標の設定が必要である。

(3) 町内各校への指導計画の還元

ア 指導計画の情報交換

- ・町教科等部会や小中連携研修で情報交換や指導計画の提供を行う。
- ・研究の成果を町内各校へ還元する。

2-2 調査研究の結果明らかとなった成果・課題

(子どもの視点から)

○共通単位によりスパイラル学習が可能となり、児童への定着が図られた。昨年度に比べ、児童が、自信をもって生き生きと言語活動に臨む姿が見られるようになった。

○複式授業で取り組むため、リーダーシップ、フォロワーシップが育ち、言語活動の活性化につながった。

●繰り返し単元もあり通常より1年で扱う単元数が多いため、指導基本時間より少ない時間設定で指導しなければならない単元もある。2年間を通してスパイラルで構成していく活動について、丁寧に計画を見直していく必要がある。

(教職員の負担の視点、校務運営の視点から)

○土曜授業に実施する行事や活動、教科指導、外国語等の吟味・見直しを進め、時間割編成を行ったため、45分授業での時数確保が可能となり、授業準備等において複雑化を避けることができた。

○授業実施に携わった全職員から授業実施後の課題を吸い上げ、次年度の指導計画へ反映させることができた。

●評価を工夫する必要がある。単元によっては学年別目標を設定し、指導と評価の一体化を図りたい。

(地域との関係の視点から)

○土曜授業の活用により、特色ある教育活動を展開できるため、地域と連携しながら授業の充実を図ることができた。(地域人材の活用等)

2-3 (実践校における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	
5月	研究推進委員会(目的・方法等の確認)
6月	校内研修(外国語学習の理解, スキルアップ研修)
7月	学校評価(成果と課題)
8月	研究推進委員会(進捗状況の確認) 小学校英語力向上研修会「実践発表」
9月	
10月	
11月	研究推進委員会(時間割編成の進め方の確認)
12月	教育課程編成会議(指導計画の検討), 学校評価(成果と課題)
1月	教育課程編成会議(指導計画の作成, 手引きの作成)
2月	教育課程編成会議(指導計画の作成, 手引きの作成・印刷)
3月	研究推進委員会(次年度の確認), 学校評価(成果と課題)

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

(子どもの視点から)

【15分の短時間学習について】

○15分の短時間学習については、児童の集中力の問題や45分授業との関連、運用や管理の面からその効果については心配されたが、「2. 調査研究の内容」にあるような運用方法の工夫（前日の板書準備や、単元の流れに沿ったSmall Talk+言語活動→振り返りという学習の流れの定着化）を行うことにより、英語に触れる機会を増やすことができるという短時間学習の利点が活かされ、児童の英語学習への意欲の高まりや音声面の技能定着につながった。

表1は鹿屋小学校の6年生に実施した意識調査であるが、9割を越える児童が外国語の学習を好きだと回答している。また、中学生になっても、あるトピックについてペアで1分間会話を続ける生徒の姿が見られ、鹿屋中学校の平成30年度1年生は、平成29年度の1年生と比較し、鹿児島学習定着度調査において、大幅に通過率が上がっている。特に、思考・表現力は21.5%上がっている。

表1【鹿屋小6年生意識調査】

	H29	H30
1 とても好き	45.6%	50.0%
2 まあ好き	49.4%	43.2%
3 あまり好きでない	3.8%	3.0%
4 まったく好きでない	1.2%	2.8%

(外国語の学習は好きか)

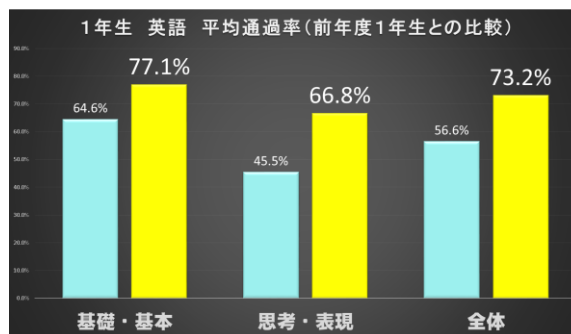
言語活動に臨む児童の姿からも、自信をもって生き生きとコミュニケーションを図る様子を見取ることができた。担当の教諭からは「外国語（活動）の授業以外ではなかなか手を挙げて発表できず、グループでの話し合いに参加できなかった児童も、外国語（活動）の授業では積極的に笑顔で発言することができ、それが他の教科での学習にも言い影響を与えています。」との声があがった。

- 15分の短時間学習の導入により、特に音声面の技能の定着は図りやすくなったと考えるが、「書く」技能については、効果が確認できなかった。音声面の言語活動と切り離れた短時間学習で書くことのみを扱うことは好ましくないのではないかとの意見があった。「読む・書く」の文字を扱った言語活動についても、児童が英語を使ってできるようになったことを実感できるように、15分授業と45分授業との関連を図りながら、指導計画を練り直していく必要である。

【15分+45分の60分授業について】

○60分授業については、平成29年度の実施では、「児童の集中力が保てない。」ことが課題として上げられていたが、単元の見直しをもつ第1時と、単元の目標となる言語活動の充実を図ったり振り返ったりする終末時に活用することで、その効果が確認できた。児童は生き生きと活動し、「60分は長くて大変じゃないですか？」との問いに、「あっという間です。」

表2【鹿屋中1年鹿児島学習定着度調査結果】



「今日の〇〇の活動はもっとやりたかったです。」などの返事が返ってきた。

- 60分授業の効果的な実施には、担当教諭の英語力も重要な要素であるとの意見があった。調査研究校では教諭自身が児童との英語によるコミュニケーションを楽しみながら進めていたことが、児童の集中力の持続につながっていた。60分授業に限った話ではないが、担当教諭の英語力の向上は課題である。

【複式学級の指導について】

- 複式学級における指導については、学年別指導を基本とする取組と同単元指導を基本とする取組の二通りの取組を実施したが、双方とも児童は自信をもって意欲的に活動できるようになった。共通して言えることは、ともに学年別の活動と異学年合同での活動を効果的に組合せながら実施したことが成果につながったということである。
- 複式学級における15分の短時間学習については、学年別指導を基本としている学校では低学年担任の協力を得ることができなかつたため、2学年合同の活動しか組めずどうしても補充的な学習となってしまった。

（地域との関係の視点から）

- 土曜日に外国語の授業を組み、地域の方々に参観していただく機会を設けることができたことにより、小学校が取り組んでいる外国語教育の充実について地域に理解していただくことができた。
- 各自治体は英語に堪能な地域人材の活用に努めているところであり、支援員等として活用できる自治体もあるが、該当する人材の確保自体が難しい地域もあった。今後も、ALTの活用や中学校との連携など、各地域の実態に応じた人材活用の在り方について研究を進める必要がある。

（教職員の負担の視点、校務運営の視点から）

- 15分の短時間学習や60分授業の実施に当たり、学級経営や学習のしつけ、自身の英語力など、教職員自身の指導力等を見直すよい機会となった。
- 校内研修の充実、校内全職員で取り組む体制づくりや、近隣の学校等とのネットワークづくりが進み、担任の不安感の解消、負担感の軽減につながっている。
- モジュール学習に対応した年間指導計画、単元指導計画が作成でき、来年度以降への不安が軽減され、指導法研修等、実際の授業準備にかかる協議に時間を使うことができるようになった。単元指導計画については、来年度以降も、実態を踏まえながら作成・修正を進めていく必要がある。
- 中・高学年担任だけではなく、全職員で外国語教育に取り組む体制が整い、英語教育の充実に向けての意識向上が図られた。
- 基本的な指導展開例の作成や年間指導計画、単元指導計画を作成していく中で、中学校英語科教員から助言をもらい、小中の連携を深めることができた。
- 低学年担任の協力による複式学級の指導については、児童の姿に一定の成果が認められたものの、職員の打合せや授業準備の時間の確保が課題となった。現在、6校時終了時刻が早い日は月曜のみだが、水曜日にも同じ時程を位置付け、打合せや教材研究・準備の時間を確保

できるようにすることを検討中である。

- カリキュラム・マネジメントに関する調査研究と同時に、自身の英語力・指導力向上のための研修充実の必要性を感じている。国や県教委が提供している研修用の資料を活用し、引き続き、教員の英語力・指導力向上のための研修の充実を図っていく必要がある。
- 市共通の年間指導計画やレスンプランを示せたことはよかったが、各学校が児童の実態（特に英語への慣れ親しみの度合い）に合わせて自校化することを指導していくことが必要である。

（設置者（教育委員会など）の視点から）

- 15分の短時間学習については、その運用方法や効果に不安を抱える学校もあったが活用しなければ時数確保できない学校もある状況の中、15分の短時間学習の運用方法及びその効果を示すことができたことは、本調査研究の大きな成果であった。
- 60分授業の在り方については、外国語学習の指導過程の在り方を踏まえた運用方法の提案ができたことは、単なる時数確保ではなく、効果的な指導法と関連づけながら教育課程編成を実施することの重要性を示すことにもつながった。
- 複式学級の指導については、学年別指導を基本とする取組と同単元指導を基本とする取組の二通りの取組とその年間指導計画を示すことができたことにより、各学校の実態（転出入の児童が比較的多い学校は学年別指導を基本とした指導計画、など）に応じた教育課程編成に役立ててもらうことができた。
- 平成32年度からの新学習指導要領全面実施に向け、15分の短時間学習や60分学習、複式学級における指導の在り方等の、本県においてニーズの高い課題に対して、実践的研究を行うことができた。本調査研究の成果については、8月の県主催研修会で発表したり、県の学力向上支援Webシステムに掲載したりすることにより波及を図った。今後も、本研究成果を県下に波及させるとともに、それぞれの学校において自校化を図らせていきたい。
- 外国語科、外国語活動の指導法については、継続的に研修の場を設定し、資質の向上を図っていく必要がある。